

ステロイドパルス療法が著効したと思われる呼吸不全の一例

徳之島徳洲会病院 研修医 有馬喬・泉健太郎

【症例】

慢性好酸球性肺炎と診断後、軽快増悪を度々繰り返していた患者、安定期の PSL は 10 mg/day。平成 19 年 5 月 19 日、インフルエンザ A 型に罹患。インフルエンザは一旦軽快したが、平成 19 年 6 月 26 日より 39 度台の発熱、咽頭痛、咳そう、喀痰を認めるようになった、肺炎疑いにて、解熱剤、抗生剤処方にて一度帰宅。翌日早朝、発熱も持続、呼吸困難、意識障害が出現。精査加療目的に 6 月 27 日当院内科入院となった。入院後ステロイドパルス療法施行、細菌性肺炎も否定できなかったため抗生剤も併用した。第 3 病日より呼吸状態改善し、ステロイドの減量もできた。ステロイド、抗生剤いずれが著効したか判断は困難であるが、今回と同様のエピソードが数回あることを考えると、ステロイドが著効した可能性が高いと思われる症例。